

令和8年8月14日

瀬戸内市議会議長

小野田光 様

視察研修報告書

報告者 秦井誠司

政務活動費を使用して、視察研修を行いましたので、その結果を報告いたします。

期 間	令和8年8月12日(水)
視察先	糸あやつり人形劇団みのむし アトリエ（京都市上京区不動前町1-2）
視察事項	糸あやつり人形の文化と次世代継承の方法、ならびに竹田喜之助氏とのかわりについて
参加者	河本裕志、日下俊子、川勝浩子、秦井誠司 計4名
概 要	◎糸あやつり人形劇「みのむし」公演鑑賞 演目「キリンのリンちゃん」、アルフレッド親子一座が演じる「赤ずきんちゃん」の鑑賞。劇団「みのむし」座長の飯室康一氏とキリンの人形による腹話術のトークのあと、糸あやつり人形劇でアルフレッド親子が演じていくストーリー。主人公赤ずきんやおおかみなどの役に扮した親子をあやつり人形で展開していくというもの。 ◎貴重映像、人形劇団「竹田人形座」の視聴およびフリートーク、質疑応答 フランス語の字幕付きで竹田人形座と竹田喜之助のことを特集するTV番組の映像資料を拝聴する。その後、喜之助氏の人形作品の技術的に大変細やかであり、凝った作りであった人形作品とともに、喜之助氏が人間性の奥深い人物であったことなどが語られた。 劇団「みのむし」は1500体の人形を保有しており、その保管方法と人形の制作現場も見学させてもらった。
所 感	公演鑑賞を通じて、どのような世代でも楽しめる劇であり、また人形劇ならではのコミカルな動作から表情までもが何人をも飽きさせない魅力を改めて感じることができた。ライブならではの臨場感や、演者と観客との掛け合いも引き込まれる要素であると感じた。このような体験は子供の感性豊かな情操教育にもいいということが感じられ、パソコンやテレビ画面からは味わえないものがある。 このような文化はその地を豊かにし、深みのある場になっていくものであると考えており、このような土壌が瀬戸内市には備わっている。それが「喜之助人形フェスタ」であり、竹田喜之助顕彰会であると考えている。 今回はこれらの文化を守っていく必要性について、改めて深く考えさせられた。

